大きな教会－キリストの願い？

２０15年7月10日
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
西九州伝道所
佐々木正明

教会を大きくしたい。これはすべての牧師の願い、すべての信徒の望みであると言えそうだ。教会を大きく育てた牧師は、成功した牧師として、尊敬を受け、メディアでも取り上げられる。教会を大きくするために、さまざまな方策が練られ、多くの講演会が開かれ、目白押しにセミナーが計画される。小さな教会の牧師は、血眼になって努力をする。そして、たいがいの場合、自分の無能力さに恥じ入り、肩身の狭い思いをさせられる。

しかし、ちょっと待ってほしい。教会を大きくすることはキリストの願いだろうか。キリストは、全世界に出て行って福音を宣べ伝えるように、お命じになった。だが、教会を大きくしなさいと、一度でも語っているだろうか。使徒たちは福音宣教に命をかけた。しかし、彼らの中の一人でも、教会を大きくするために努力をしただろうか。教会を大きくすることは、教会に与えられた使命だろうか。

教会が大きくなること自体は、悪いことではない。それが熱心な宣教の結果であれば、おおいに喜ぶべきだ。まじめな牧会の成果ならば感謝なことだ。しかし、教会を大きくしようという努力の結果だとするなら、どこかがおかしい。もう一度確認しよう。聖書は教会を大きくするようにとは、教えも示唆もしていない。

昨今の福音派の動きを見ていると、「教会を大きくしよう運動」に浮かされている感がある。
それは個人経営の商店が、いかに売り上げを伸ばし、規模を拡大することができるかと、東奔西走をしているのと大差ない。共通の利益のためには組合も作るが、対立する利益のためには徹底的に争う。そんな教会さえ目に付く。いったいいつごろから、教会は中小企業に落ちぶれ、宣教は広告事業に成り下がったのか。私たちは、真剣に考え、反省をしなければならないときに来ている。

成功した牧師とは何か。成功した伝道者とは何か。早々と命を落とした、主の弟子ヤコブは愚か者か。裏切られ続けて死んだエレミヤは無能力者か。日本に来る途上、乗った船が沈んで目的を果たせなかった宣教師は、失敗者か。私たちは原点に立ち返らなければならない。

今のような、「教会を大きくしよう。人数を増やそう。献金額を高めよう」という傾向が続くと、教会は腐敗し、牧師は堕落する。教会が、真の使命から目をそらし、本来の目的を誤ると、必ず腐敗する。これは歴史の教訓である。すでに多くの教会が、自分の教会を大きくしようという個人主義で争い、教会を大きくすることにはつながらない、世界宣教の働きからは手を引き、貧しいものを軽んじ、手のかかる信徒を疎んじている。

有能な牧師や伝道者には敬意を表わそう。現代でもパウロのような優秀な人物が現れる。彼には彼の働きがあった。しかし、宣教は本来小さな者の働きではなかったか。名もない人間の、名もない働きが基本ではなかったか。大使徒パウロの働きは、そのような人々の支えがあってこそ可能だった。

「教会を大きくしよう運動」は、誰をも彼をも、成功した牧師に仕立てようとする。ところが、日本のような文化背景では、ひとりの成功した牧師の背後には、何十人もの下積みの牧師の忠実な働きが必要であることに、気づいていない。そのような牧師にも、自分たちの働きの必要性、意義、大切さが、実感できなければならない。

大きくならない教会の必要性、意義、大切さが理解されなければならない。キリストの体である教会とは、ひとつの地域教会のことではない。私たちは、もっと視野を広げて、地域全体の教会の成長と発展に、目を向け。地方全体、国全体、世界全体の宣教の拡大を見るべきだ。そのとき小さな教会の重大性がわかる。

　小さな教会を大教会に成長させた、有能な牧師がいることを神に感謝しよう。大教会があることも喜ぼう。だが、教会を大きくしようというもくろみは、聖書の教えるところではない。私たちの目標は世界の宣教。それに優先する目標があってはならない。